

～新渡戸記念の～

## 『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

### 第46回『「学校の先生」～ 自分のoriginality ～』

昨日（2021年2月27日）『がんサポートナース養成講座』（片岡幸子 代表）のZoom講義『医療者の道 ～ 尺取虫運動に学ぶ ～』に赴いた（画像）。茨城、埼玉、東京、愛知、大阪、九州 etc から参加されていた。『尺取虫運動 = 自分のoriginal pointを固めてから、後ろの吸盤を前に動かし、そこで固定して前部の足に前に進める。かくて いつも自分のoriginalityを失わないですむ。』で大いに話が盛り上がった。「どんな境遇、状況でも 確実に 前進できる人物になれ」と語った。まさに、『医療者の道 ～ 尺取虫運動に学ぶ ～』である。

筆者は、順天堂大学医学部 病理・腫瘍学の教授に就任した時、内村鑑三（1861-1930）が、1894年 箱根での夏期学校の講話を纏めた『後世への最大遺物』（岩波文庫）の「アーマスト大学の教頭シーリー先生が 言った言葉に『この学校で払うだけの給金を払えば 学者を得ることは いくらでも得られる。地質学を研究する人、動物学を研究する人は いくらもある。――、しかしながら地質学、動物学を教えることのできる人は 実に少ない。―― これらの人は 学問を自分で知っているばかりでなく、それを教えることのできる 人であります』」を読み、「学校の先生」のあり方を学んだのが、今回、鮮明に思い出された。大変有意義な貴重な時間を与えられた。大いに感謝である。

